教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

園だより 1月

令和４年１月１１日
第５２６号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

今年も『まちのようちえん』として

明けましておめでとうございます。新しい年の教育活動が始まりました。今年は寅年。実は本園も寅年生まれです。じゅうじょうなかはら幼稚園は、「地域に公立幼稚園を」という地域の皆様の願いと熱意に支えていただき、昭和４９年に開園しました。それから４８年間、本園は、子どもたちのために地域の方々とともに歩んできた『まちのようちえん』であり、地域との深いつながりは、園が大切にしてきた特色の一つです。

先月は、十条仲原一丁目町会の方々と年長児が、少人数のグループに分かれて地域のゴミを拾う「町清掃」を行いました。例年のような交流行事の実施が困難なことを踏まえ、町会とご相談して実現した新たな取り組みです。出発前に町会長様から「町の人に挨拶をしましょう」「町の人からほめてもらったら、お礼を言いましょう」と教えていただいた子どもたちは、地域の方に元気に挨拶をしながら、町のゴミをトングで一つ一つ拾いました。通りがかった方々は子どもの様子に目を細め、「偉いね」「ありがとう」「きれいになるわ」「頑張ってね」など、たくさんの温かい言葉を掛けてくださいました。そして「町がきれいになったね」と話す子どもの表情は誇らしく、満足感でいっぱいでした。この経験は、子どもたちにとって、“自分は人の役に立てる”という自己有用感を味わう機会となり、自信や社会貢献への意欲につながりました。町清掃後、地域を歩いたときに「あ、ゴミが落ちている」と気付くようになった子もいます。また、年末に実施した幼稚園評価の中でも、保護者の方から「町清掃の後、地域の人に挨拶をするようになりました」「子どもが地域に関心をもつようになりました」などといったお声と大変高い評価をいただきました。

さらに先月は、町会の皆様のご協力により、餅つき会も実施しました。これは長年続いている行事ですが、昨年度はやむを得ず実施を断念しました。今年度もこれまで通りとはいきませんでしたが、子どもたちに日本古来の正月の準備や、ふかした餅米の匂い、重たい杵の感覚、つきたての餅の柔らかさや温かさなどを体験させてあげたいと願い、町会・保護者の皆様とともに感染症対策を徹底した上で、親子で鏡餅を作る行事としました。

当日は、「よいしょ！」の掛け声や、餅をつく小気味よい音が響く中、子どもたちとそれを見守る大人たち、みんなの笑顔が広がりました。コロナ禍だからこそ、行事を実施できたことの喜びはひとしおで、地域の皆様とつながることができるありがたさを一層強く感じました。子どもたちには、自分たちのことを大切に思い、厚く応援してくださる地域の方々の存在を、柔らかな記憶に刻んでほしいと願っています。そして、地域とのつながりを通して、人への信頼感や感謝の気持ち、地域への愛情、応援してもらえる存在としての自尊感情や自信を丁寧に育みたいと思います。

新しい年を迎え、またもや感染症の波が押し寄せてきています。改めて対策を徹底しながら、今年も『まちのようちえん』として保護者・地域の皆様と一体となり、教職員一同、子どもたちのための充実した教育活動に尽力してまいります。今年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 好きな遊びに自分から取り組む中で、思いを実現する楽しさや、やってみたらできたという喜びを感じる。
- 学級の友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりに伸び伸びと表現する楽しさを感じる。

＜さくら組＞

- 自分のめあてを意識しながら、試したり挑戦したりして自分の成長を感じる。
- 友達と一緒に目的に向かって取り組む中で、考えたことを伝え合い、力を合わせる楽しさややり遂げる満足感を味わう。